

建築設備士合格体験記

鮫川水系ダム管理事務所
専門電気技師兼業務課長 中尾 茂史

1 受験の動機・経緯

建築設備全般に対する知識、技術によって建築士に助言できる建築設備士は、建築設備の専門家として信頼を得られ、質の良い建築設備を造り上げることができる。

そんな設備職員になるためです。

2 試験勉強の進め方

【第一次試験（学科）】

テキストは“建築設備士学科問題解説集”と“建築設備関係法令集”を使用しました。

【第二次試験（製図）】

テキストは“日本設備設計事務所協会連合会主催講習会テキスト”を使用しました。

勉強方法は一次、二次共通ですが、朝 1 時間早起きし上記テキストを繰り返し繰り返し行いました。休日は図書館を利用し集中的に行いました。

3 勉強と仕事との両立、職場の理解について

勉強と仕事との両立は、できる時間帯や場所を模索した結果、上記のようになりました。

ズルズル間延びしないよう短期集中で行いました。

職場の理解はありましたが、現在のダム管理は業務内容が多岐に渡るため、勉強に割ける時間を確保するのに苦労しました。

4 試験当日の心構え、留意点

勉強段階から実際の試験時間で問題を解いたり、主催者 HP より入手した答案用紙を使用することで本番の緊張が少しほぐれました。

学科試験は過去問を繰り返し勉強することで傾向が掴めます。四肢択一式で 105 問もあるため、マークシートは柔らかい鉛筆が使い易いです。

製図試験は 5 時間 30 分書きっぱなしなので疲れますが、採点者に分かりやすくかつ綺麗に仕上げることがポイントです。

5 県職員採用試験受験者へのアドバイス

建築設備士の受験資格は学歴＋実務が必要となります。

- ・大学卒業（機械科、電気科）＋実務経験 2 年以上
- ・高校卒業（機械科、電気科）＋実務経験 6 年以上

県職員の建築設備にかかる行政、営繕業務は実務経験としてカウントされます。

是非、福島県建築設備職員となり建築設備士を取得し、更なるスキルアップを目指してください。